

ラーニング・サポーター ♪ 7月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<7月のつぶやき♪INDEX>

p1 旅先の日常 @MA.(人間発達学専攻(児童学)博士課程後期3年) 7月21日 tweet

p2 読書しよう @S.A.(英文学専攻博士課程後期3年) 7月23日 tweet

つぶやき1 ♪ 旅先の日常

春にベトナムへ行った。滞在したのはホーチミンである。市内ではタクシー移動が基本だが、ベトナム初のメトロ(地下鉄)がちょうど昨年末に開通したばかりということで、乗ってみた。まだ新しい電車は、日本も関わったらしく東京のメトロに似ている。そこそこ混んでいたのに、ドアに手を付けて寄りかかるようにして立っていたらベトナム語で話しかけられた。ドアに触ると危ないから離れろ、ということらしい。周りを見ると、立っている乗客はみんなしっかりと吊り革を握りしめている。日本で満員電車に乗っているとドアに寄り掛かるのはもはや不可抗力だが、ベトナムでは「危険な乗り方をしている奴」になるようだった(確かにみんな私を見ていた、申し訳ない)。私のことを心から心配していたのだと思う、ドアから離れると乗客たちががほっとした顔をしたので分かった。私なら「危ないよ」なんてわざわざ言わない。知らない人に声をかける方がリスクだからだ。ベトナムって優しい、が一番の感想になった。

旅行でどこかへ出かけて、そこで暮らしている人たちを見ると不思議な気持ちになる。電車に乗っている高校生とか。ベトナムでも制服を着た小学生たちを見て思った。自分にとっては非日常である場所を日常にしている人たちがいることに、ワクワクする感じがある。

逆もある。子どもの頃に住んでいた家は、駅から離れた住宅街の中にあつた。そんな住宅街のど真ん中、家から歩いてすぐのところに知る人ぞ知る？酒屋の本店があり、年末などは、決して近所の人ではないであろうお客さんたちで賑わっていた。わざわざ駅からバスに乗ってこんな所に来る人がいるなんて！お出かけ用の服を着た人たちを見ながらすごく変な気持ちだった(自分たちの格好はひどい)。子どもだったので、自分はこんなすごいところに住んでるんだぞ、と誇らしい気持ちになったりもした。実際はただただ辺鄙すぎる土地だっただけである。

ところで、熱帯気候のベトナムはさぞ暑いのだろうと思って日本を出たのだが、予想に反して快適な場所だった。もちろん暑い湿気もあるが、日本の夏があまりにも暑すぎて「こんなもんか」と思ってしまったのだ。暑すぎるのが「日常」になってしまったとは…誇るところというより、嘆くところだとは思う。

つぶやき2 ♪ 読書しよう

早くも7月が終わりに近づき、8月に突入しようとしています。テスト期間を乗り越えた方もいらっしゃるかと思います。これから大学生の特権とも言える長い夏休みがやってきますね。

ところでみなさんには、授業や課題、また執筆活動以外で本を読むという習慣があるでしょうか？近年、携帯やパソコンなどで手軽に楽しめる YouTube や TikTok といったソーシャルメディアの台頭により、以前より読書の習慣が減った、あるいはなくなってしまったという現代人は多いのではないのでしょうか？実際に、電車の中で 50 代～60 代の人が

人間生活学研究科 人間発達学専攻
博士課程後期3年(児童学)

「教職は両立できるかな」「卒論のテーマが決められない」「進路はどうしよう」
ちょっと誰かに聞いてもらいたいな…という学習の悩みが出てきたときは
ぜひお声がけください♪相談者の方と一緒に考え、答えを見つけるサポートをします。

● 資格
保育士
幼稚園教諭
小学校教員

● 研究分野
子どもの人間関係
(幼稚園等で観察調査)



読書をしている光景を見かけることはあっても、私と同世代、あるいはもっと若い世代はもっぱらSNSに集中している人が多いように感じます。また、年々まちの本屋が無くなっているというのは深刻な事実であり、文学部に所属する学生として、「読書離れ」というこの状況はすごく悲しいことだなとも思うのです。

読書の魅力や読書を通して得られることはたくさんあると思います。ここでは私が感じる読書の面白さを少しだけみなさんに共有したいと思います。

本のみが持つ特権として、読み手の思考の中で自由に物語の世界を構築できるという点が挙げられます。作中で描写されている景色や対象物がどのような雰囲気であるのか、あるいは登場人物たちがどういった様子なのか、彼らの発言や語り手の言葉が何を意味するのか、それらを自分で想像できるというのは映画やドラマでは体験できないことです。それゆえ同じ作品を読んでも、作品の捉え方や感じ方が読み手によって異なり、独自の世界観が展開される点に魅力を感じます。そして本の世界では、別世界に入り込んだような不思議な感覚を得られるだけでなく、自分以外の人間の視点や思考に一番リアルに入り込むことができる—登場人物たちの観点をより身近に体験することができる—空間だと思うのです。私の場合、特定の時代背景が設定されている作品や、哲学的な思考を含む作品における人物たちの視点を通して物語を読むと、今まで知り得なかった価値観や考え方に気づかされることが多々あります。この新たな価値観や考え方との出会いが、自分の世界観をより広くし、生き方を豊かにしてくれる気がするのです。

読書習慣がないと言う人は、いつもより時間に余裕ができるこの期間中に本を読んでみてはいかがでしょうか？あなたが読み手だからこそ得られる“何か”が、きっとあるはずです。今年の夏が、みなさまにとって充実した夏休みとなりますように。

文学研究科 英文学専攻 博士課程後期3年

資格 専修免許状(中高・外国語) / 図書館司書資格
 研究対象 ユダヤ系アメリカ文学(Isaac Bashevis Singer)



みなさまが充実した大学生活を過ごせられるように、何か少しでもお役に立てれば嬉しいと思っています。
 学習や資格、また教職に関してお悩みがある方はぜひお気軽にいらしてください。





図書館にてお待ちしております」



ラーニング・サポーターのつぶやき (2025年7月)
 ホームページ https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html
 編集: JWU ラーニング・commons さくら